

認定専攻科修了見込み者に対する学位授与の審査の特例

学位規則第6条第1項の規定に基づく 学士の学位の授与に係る特例について

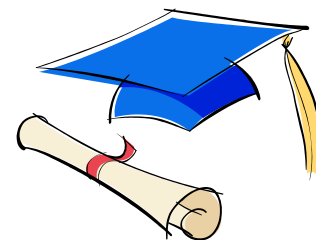
(独)大学評価・学位授与機構
研究開発部

平成28年度の特例適用認定の申出に係る説明会
2016（平成28）年3月18日 一橋講堂

学士の学位の授与に係る特例について

構成

1. 「学士の学位の授与に係る特例」導入の背景
2. 機構の学士の学位授与制度
ー 通例の審査方式と特例の審査方式 ー
3. 「学士の学位の授与に係る特例」の概要



「学士の学位の授与に係る特例」導入の背景

背景

認定専攻科を修了見込みで機構の学位授与制度に申請する者に対して、**認定専攻科における学習活動を一層充実**させるために**専攻科での学修の成果により着目**した形で審査を行ない、学士の学位を授与することができないか

課題

現行の審査方式(修得単位の審査、学修成果・試験の審査)の下に授与される学士の学位と同等の**学位の質**をどのように担保するか

論点

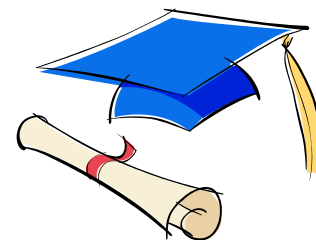
- ・ 学士として身につける力の確保と学位授与権者としての責務
- ・ 申請者（認定専攻科の学生）の学習・教育環境の向上
- ・ 短期大学及び高等専門学校専攻科、学位審査会、機構の協働
- ・ 円滑な学位の審査と授与

中央教育審議会答申(平成23年1月31日)
「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

学士の学位の授与に係る特例について

構成

1. 「学士の学位の授与に係る特例」導入の背景
2. 機構の学士の学位授与制度
ー 通例の審査方式と特例の審査方式 ー
3. 「学士の学位の授与に係る特例」の概要

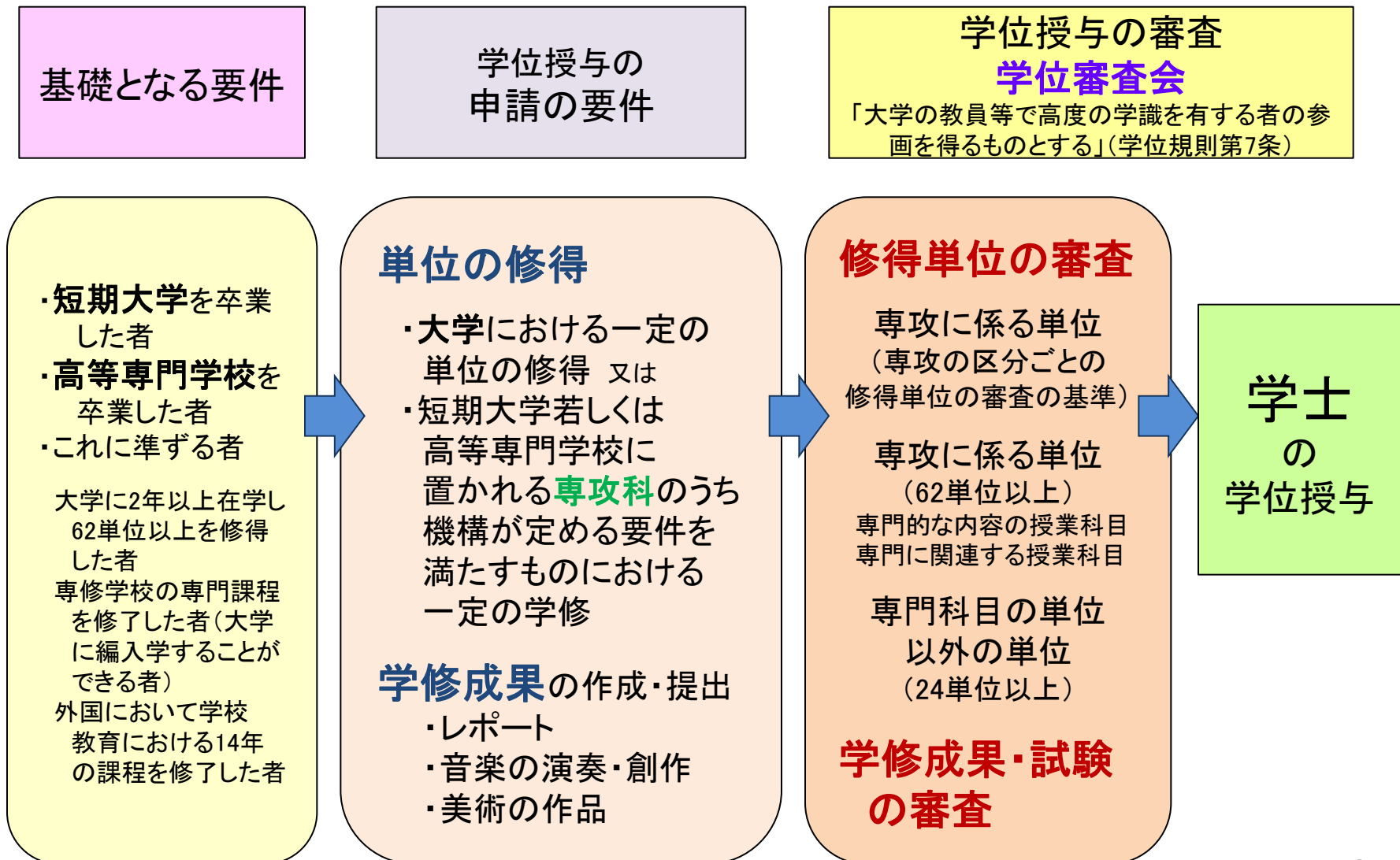


単位積み上げ型の学士の学位授与制度

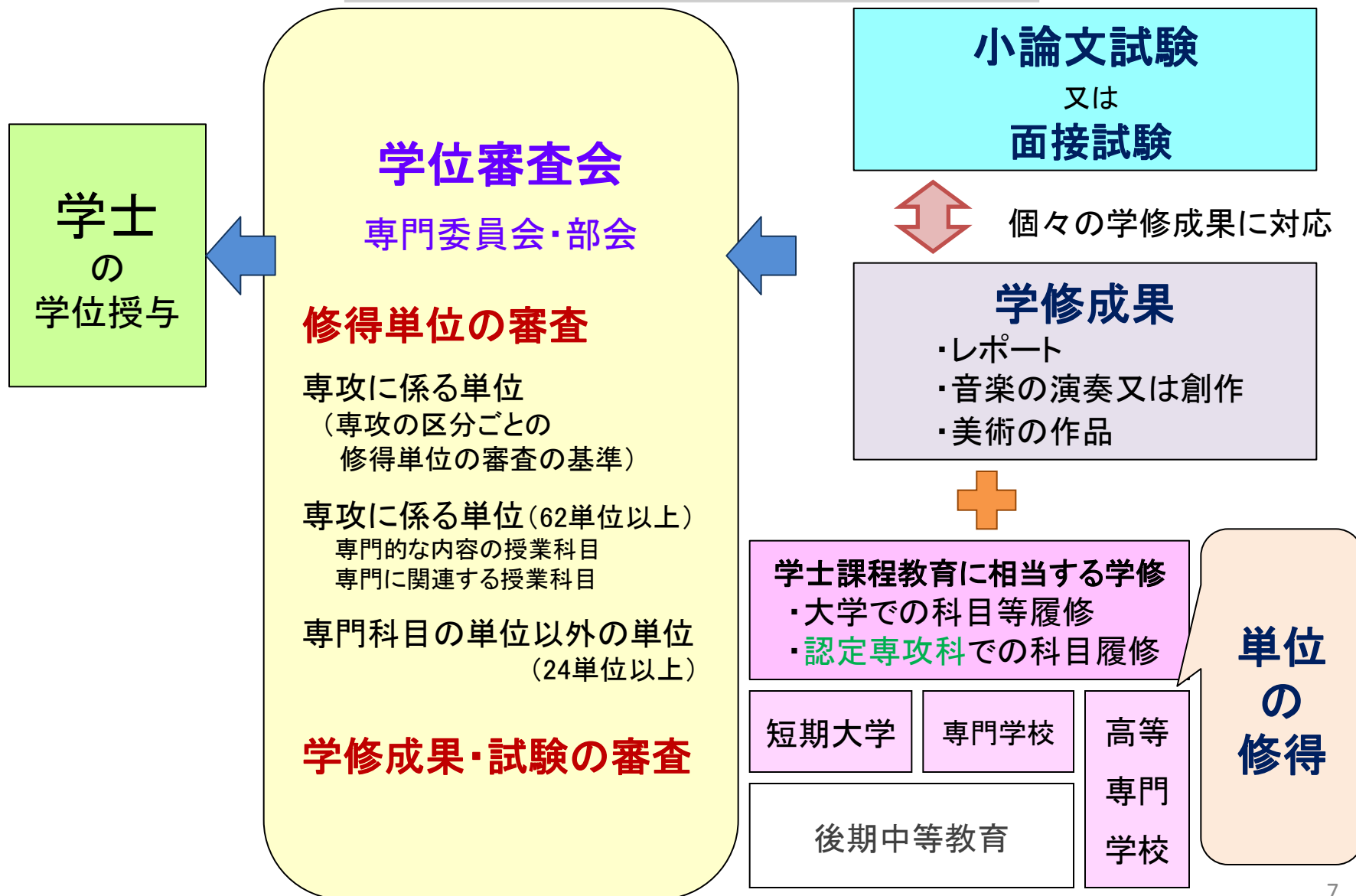
- 機構の学士の学位授与に係る審査の2本柱
 - 修得単位の審査
 - 学修成果・試験の審査
 - なぜ学修成果の提出を求め、試験を実施するのか
 - 「学士」取得者に求められる力を、個々の申請者について審査
 - ※ 学修成果をレポートとする場合…小論文試験
学修成果を演奏・創作(音楽)、作品(美術)とする場合…面接試験
 - だれが審査するのか
 - 学位審査会 専門委員会(19)部会(42)、専門委員(約350名)
全国の大学の教授(当該専門の事項に関し学識経験のある者)
 - 専攻の区分に係る学士の水準の学力を有するか
 - 学修成果の内容と学修成果に応じて出題される問いへの解答
専門委員との学術的な対話
- ⇒ 学位の質の保証

機構の学士の学位授与制度

通例の審査方式による学位授与の流れ



機構の学士の学位授与制度 通例の審査方式

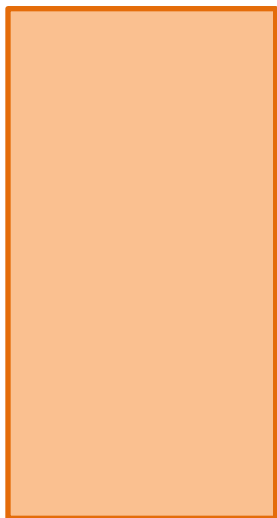


機構の学士の学位授与制度の考え方

大学の目的

大学

学士



- ・大学は、**学術の中心**として、**広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる**ことを目的とする。

- ・大学は、当該大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために**必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成**するものとする。

- ・教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係る**専門の学芸**を教授するとともに、**幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養**するよう適切に配慮しなければならない。

機構の学士の学位授与制度の考え方

短期大学・高等専門学校の目的

短期大学・ 高等専門学校

専攻科

短期大学士
準学士

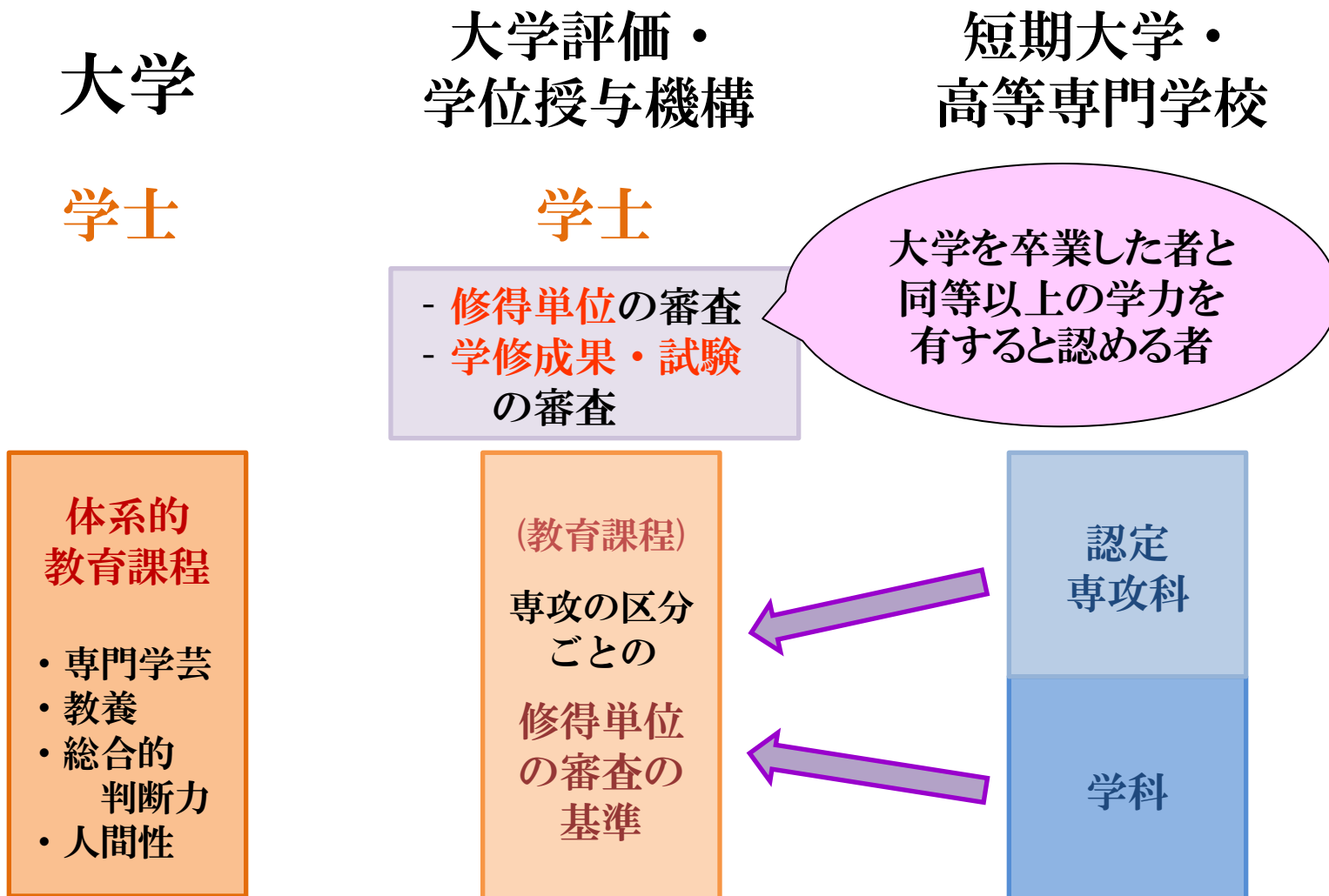
学科

- ・ 大学（短期大学）は、**深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成**することを主な目的とすることができる。

- ・ 高等専門学校は、**深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成**することを目的とする。

- ・ 専攻科は、（…）**精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導**することを目的とし、その修業年限は、1年以上とする。

通例の審査方式（現行の審査方式）



学士の学位取得者に共通に求められる力

高等教育段階で「各専攻分野を通じて培う学士力」

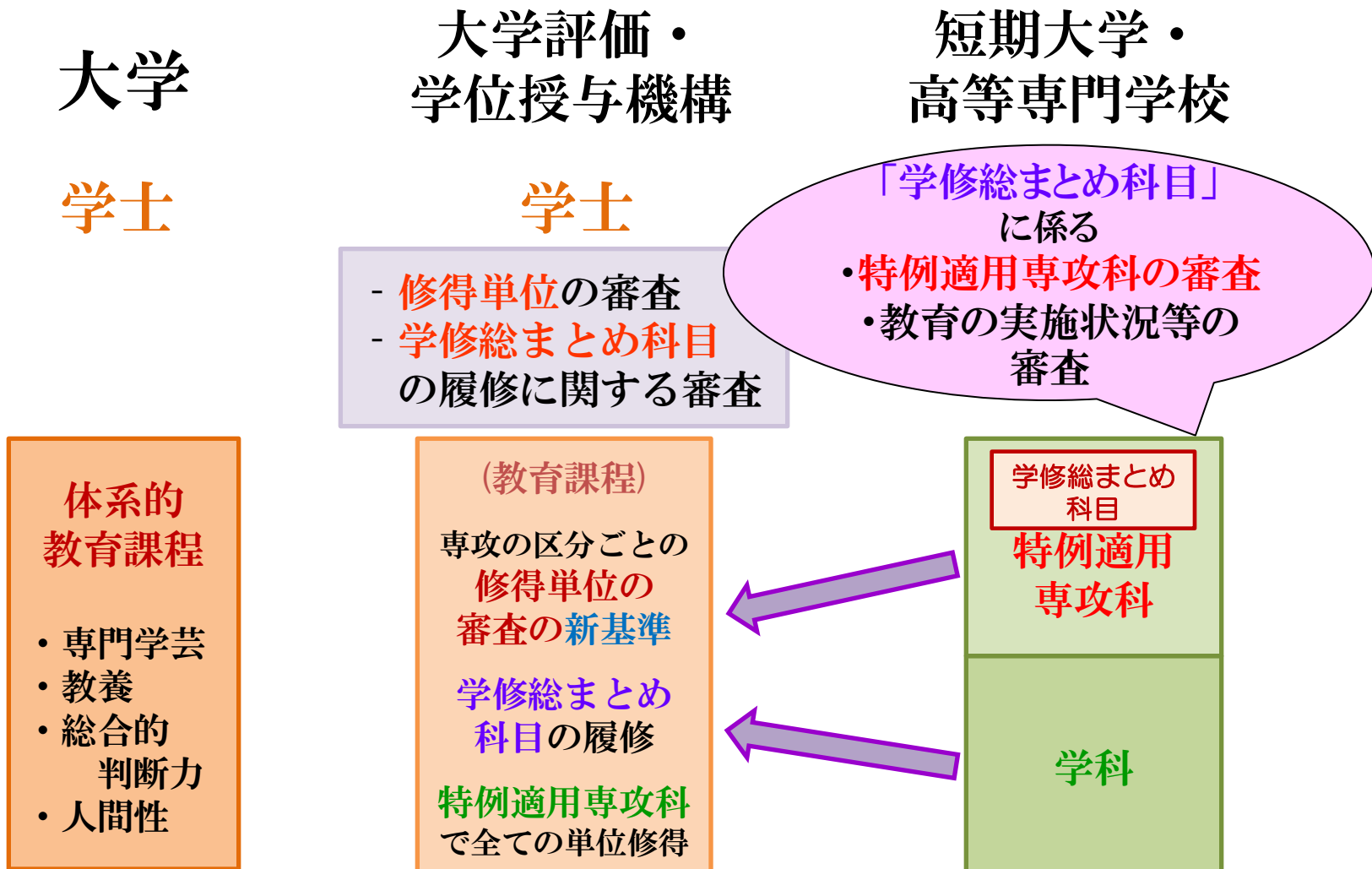
- 知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力
- 人間としての自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担いうる、倫理的、社会的能力
- 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
- 想定外の困難に際して的確な判断をするための基礎となる教養、知識、経験
- 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力

⇒ **学修成果** (learning outcomes) への着目

多様な高等教育機関での学修と「学士」としての共通の力に関する議論

- “Dublin Descriptors” (Framework for Higher Education Qualifications, 2005)
- “The Degree Qualifications Profile” (2011)

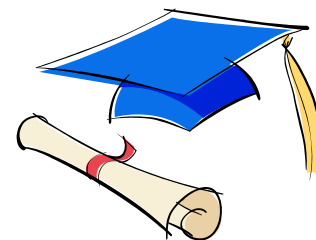
特例の審査方式（新たな審査方式）



学士の学位の授与に係る特例について

構成

1. 「学士の学位の授与に係る特例」導入の背景
2. 機構の学士の学位授与制度
ー 通例の審査方式と特例の審査方式 ー
3. 「学士の学位の授与に係る特例」の概要



「学士の学位の授与に係る特例」の概要

対象者

- **特例適用専攻科の修了見込み者**に限定
(機構により学士の学位の授与に係る特例の適用認定を受けた専攻科を、修了見込みで申請する資格を有する者)
 - 前提として「学士の学位の授与に係る特例」の適用を希望する**専攻科**を機構が**審査し認定**
(申出要件：通例の審査方式で一定の実績を有する認定専攻科)
- ⇒ 学士の学位の授与に係る特例の適用認定を受けた専攻科＝**特例適用専攻科**の**在学者**は原則「特例」に申請

機構は、特例適用専攻科の在学者が当該専攻科を修了し、特例の審査方式の下で機構の行う審査に合格した者に対し、学士の学位を授与する。

※ 他の申請者に対して、通例の審査方式は継続する。

「学士の学位の授与に係る特例」による審査

前提

- 特例の適用認定の申出があった認定専攻科を、学位審査会で審査
- 特例適用専攻科の修了見込み者に対して、下記の審査により学士を授与

1. 修得単位の審査（新基準）

- 短期大学、高等専門学校卒業後に修得すべき積み上げ単位をすべて特例適用専攻科で修得
- 特例適用専攻科で修得すべき「専攻に係る単位」修得要件について新基準

2. 学修総まとめ科目の履修に関する審査

- 特例適用専攻科の最終学年に履修し、単位を修得
- 学修総まとめ科目履修計画書と成果の要旨等を機構に提出

1. 修得単位の審査

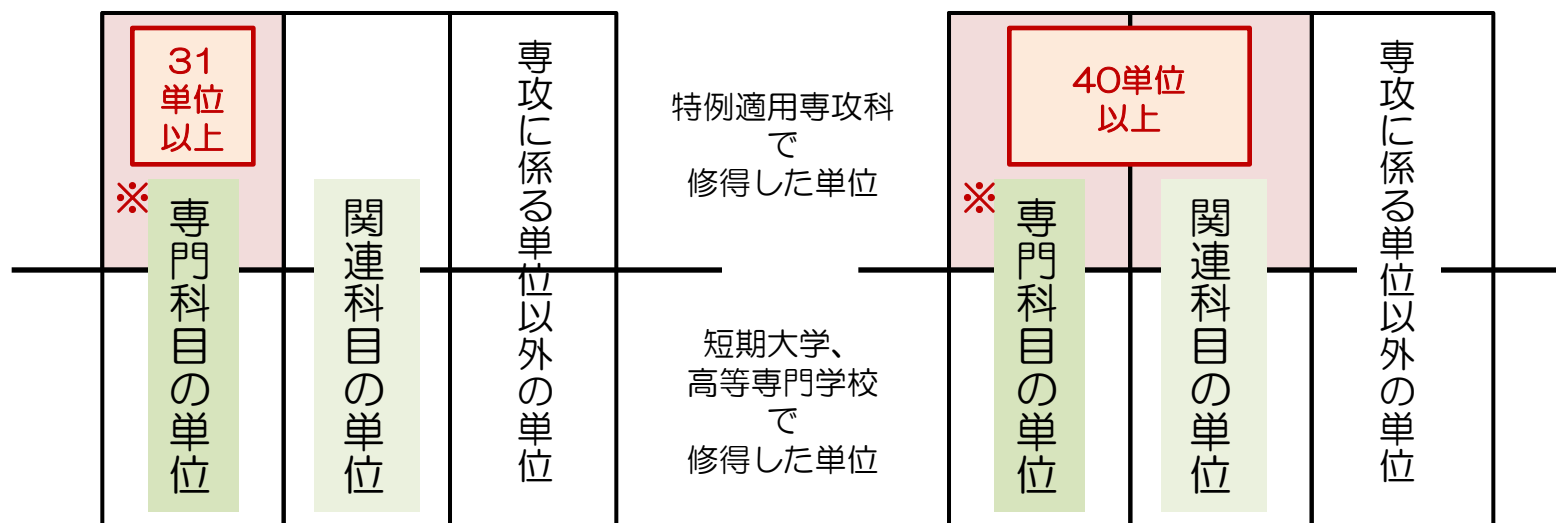
- 積み上げ単位をすべて特例適用専攻科で修得すること
- 学科と専攻科の授業科目が大学の学士課程教育に相当
- 機構が定める修得単位の審査の基準との適合性

＜短期大学・高等専門学校の学科2年＋専攻科2年の場合＞

専門科目31単位以上

かつ

専門科目＋関連科目で40単位以上



※「学修総まとめ科目」の単位を含めることができる。

※「学修総まとめ科目」の単位を含めない。

1. 修得単位の審査

- 積み上げ単位をすべて特例適用専攻科で修得すること
- 学科と専攻科の授業科目が大学の学士課程教育に相当
- 機構が定める修得単位の審査の基準との適合性

＜短期大学の学科3年＋専攻科1年の場合＞

専門科目16単位以上

かつ

専門科目＋関連科目で20単位以上

※ 16 単位 以上		専攻に係る単位以外の単位	特例適用専攻科 で 修得した単位	※ 20単位 以上		専攻に係る単位以外の単位
専門科目の単位	関連科目の単位		短期大学 で 修得した単位	専門科目の単位	関連科目の単位	

※「学修総まとめ科目」の単位を含めることができる。

※「学修総まとめ科目」の単位を含めない。

2. 学修総まとめ科目の履修に関する審査

- 学士課程教育に相当する **4年間の学修を総括する授業科目「学修総まとめ科目」**の履修と単位修得
- 前提として、**特例適用専攻科**が教育課程の最終学年に置く授業科目を「学修総まとめ科目」として機構（学位審査会）が**審査し認定**
 - **学位審査会・専門委員会**による「学修総まとめ科目」の審査と認定
 - ・ **授業科目の内容・計画** ⇒ **授業に関する実施計画書（総表、個表）**
 - ・ **担当教員**（指導教員、指導補助教員）の資格 ⇒ **教員の個人調書**
 - ・ **成績評価の基準と方法** ⇒ **成績評価基準等を記載した書類**
 - 「学修総まとめ科目」の履修による単位修得の要件
専攻に係るテーマの学修・探究を行い、「成果」を作成
→ 論文 又は 芸術作品（演奏・創作又は作品）

【様式第4号】

学修総まとめ科目に相当する授業科目名を記載します。

【総表】

専攻科名	○○○○	講義、演習、実験・実習等の授業形態を記載します。 複数の授業形態を組合わせて構成する場合は、それぞれの割合も記載します。	専攻の区分	電気電子工学	
授業科目名	○○○○○				
履修年次	専攻科 2 年次	履修学生数	○	単位数	○
授業形態	講義 (30%)、実習 (70%)	指導教員数	○	指導補助教員数	○

(1) 専攻科の教育目的・特色と 学修総まとめ科目との関連	
(2) 大学の学部４年間に相当する 教育課程の学修を総括する 科目としての妥当性	
(3) 学修総まとめ科目の目標と、 履修により得られると予想 される能力及び教育効果	
(4) 上記(3)に述べられている 目標を達成するための方法	
備考	

・学修総まとめ科目の授業に関する**実施計画書**（総表および個表）、**成績評価の観点と基準**は、特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査を受けるまでの間の審査資料であることに留意してください。

(1)教育目的・特色と学修総まとめ科目との関連
専攻科の特色がどのように反映されているか。

(2)学修総まとめ科目としての妥当性
概ね4年間の大学学部相当の教育課程の学修を総括する科目であることの説明。

(3)目標と、履修により得られる能力・教育効果
学生にどのような能力をつけさせるのか、その到達目標と教育効果を説明。成績評価の観点と基準に反映されていることが必要。

(4)目標を達成するための方法
実施方法と計画を説明。

・詳しくは「特例適用専攻科認定申出書類作成の手引き」を参照してください。

学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書【個表】

・課題名：学生が個々に行うテーマではなく、指導教員が学生指導に際して取り上げる課題を包括的に表す課題名を記述。

(1)課題の位置づけ

総表に記載されている目標との関連を説明。

(2)到達目標

当該課題の実施により履修者が修得できる
学力・能力を説明。

(3)課題の内容

課題の実施方法や計画を具体的に記述。

(4) キーワード

(5)履修条件

(6)特記事項

複数指導体制の場合は、必要性和役割分担。
新規領域の課題の場合、その課題を指導で
きることの説明（研究実績との関連を記載）。

・「個表」の内容が変更になる場合は、変更届を提出してください。

(その2)

学修総まとめ科目に相当する授業科目名を記載します。

「通し番号/個表の総数」を記載します。

【個表】

学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書

授業科目名	○○○○○				
課題名	○○○○○○○○○○○				
専攻の区分	電気電子工学	履修者数	4人	個表番号	1/5

担当教員名	指導・補助の別	職名	個人調書番号
○○ ○○	指導教員	教授	1
○○ ○○	指導補助教員	教授	2
○○ ○○	指導補助教員	准教授	3

(1) 課題の位置づけ (総表との関係)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
(2) 履修者の到達目標	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
(3) 本課題の内容	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
(4) キーワード	○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○
(5) 履修条件	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○。
(6) その他特記事項	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

2. 学修総まとめ科目の履修に関する審査

- 学士課程教育に相当する学修総まとめ科目の履修と単位修得
- 「学修総まとめ科目履修計画書」及び「成果の要旨」等の提出
 - 「学修総まとめ科目」の履修の申告と成果の実証
- 学修総まとめ科目履修計画書（申請時に提出）
 - ・ 「学修総まとめ科目」で自ら取り組むテーマと、学修・探究の内容（計画）
 - ・ テーマに関する学修・探究を進める上で基盤となる4年間の学修全体の省察
 - ・ A4判用紙2枚に2,400～3,000字程度
- 成果の要旨又は説明書等（特例適用専攻科修了確定時に提出）
 - ・ 「成果の要旨」
学修・探究の成果を論文とする場合（A4判用紙2枚に2,400～3,000字程度）
 - ・ 「成果の説明書」及び「成果の録画メディアないし映像作品（DVD）」
学修・探究の成果を芸術作品とする場合（A4判用紙1枚に1,600字程度）

学修総まとめ科目履修計画書

「学修総まとめ科目」の履修による

学修・探究の成果を「論文」とする者

	項目及び内容
1	「学修総まとめ科目」で取り組むテーマと学修・探究の計画
1-1	テーマ及び指導教員名
1-2	テーマの着想に至った背景
1-3	目的
1-4	手法・手段
1-5	内容（計画）・過程
1-6	予想される結果・成果
2	「学修総まとめ科目」の学修・探究を支える学修全体について
2-1	テーマの学修・探究の基盤となる専門科目の学修
2-2	テーマの学修・探究に関係する関連科目の学修
2-3	専攻に係る科目以外の学修
2-4	自分自身の4年間（短期大学又は高等専門学校の学科及び専攻科）の学修全体の省察

A4判用紙2枚に2,400～3,000字程度

「学修総まとめ科目」の履修による

学修・探究の成果を「演奏・創作又は作品」とする者

	項目及び内容
1	「学修総まとめ科目」で取り組むテーマと学修・探究の計画
1-1	テーマ及び指導教員名
1-2	テーマの着想に至った背景
1-3	演奏・創作又は作品の構想
1-4	演奏・創作又は作品制作の手法・手段、作品の材料
1-5	演奏・創作又は作品制作の計画・過程
1-6	予想される結果・成果
2	「学修総まとめ科目」の学修・探究を支える学修全体について
2-1	テーマの学修・探究の基盤となる専門科目の学修
2-2	テーマの学修・探究に関係する関連科目の学修
2-3	専攻に係る科目以外の学修
2-4	自分自身の4年間（短期大学の学科及び専攻科）の学修全体の省察

A4判用紙2枚に2,400～3,000字程度

学修総まとめ科目の成果の要旨等

学修・探究の成果を「論文」とする者

	項目と内容
1	テーマ及び指導教員名
2	背景
3	目的
4	手法・手段
5	内容（「学修総まとめ科目履修計画書」に記述した計画・内容から大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等を含むこと。）
6	得られた結果と考察・将来展望

成果の要旨：

A4判用紙2枚に2,400～3,000字程度

成果の説明書：

A4判用紙1枚に1,600字程度

学修・探究の成果を「演奏・創作又は作品」とする者

		項目と内容
音楽	演奏	1 テーマ及び指導教員名
		2 演奏曲目（演奏収録の時期・場所を含む。）
		3 選曲の理由
		4 演奏の特徴
		5 演奏において留意・工夫した点（「学修総まとめ科目履修計画書」に記述した計画・内容から大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等を含むこと。）
		6 得られた成果と考察・将来展望
		7 成果の録画メディア
	創作	1 テーマ及び指導教員名
		2 創作の経緯（創作の時期を含む。）
		3 創作の特徴
		4 創作の手法・手段
		5 創作において留意・工夫した点（「学修総まとめ科目履修計画書」に記述した計画・内容から大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等を含むこと。）
		6 得られた成果と考察・将来展望
		7 成果の記録メディア
美術	作品	1 テーマ及び指導教員名
		2 制作の経緯（制作の時期・場所を含む。）
		3 制作の特徴
		4 作品の材料、制作の手法・手段
		5 制作において留意・工夫した点（「学修総まとめ科目履修計画書」に記述した計画・内容から大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等を含むこと）
		6 得られた成果と考察・将来展望
		7 成果の録画メディアないし映像作品

2. 学修総まとめ科目の履修に関する審査

「学修総まとめ科目履修計画書」及び「成果の要旨」等の提出

○学位審査会（専門委員会）による審査

- ・学修総まとめ科目の学修・探究に関する申請者からの「履修計画書」と「成果の要旨」等の内容の整合性
- ・申請者の「履修計画書」、「成果の要旨」等と特例適用専攻科による成績評価に関する書類の照合・確認

学修総まとめ科目の単位修得 ← 特例適用専攻科において
成績評価の観点と基準に基づき審査の結果、単位を授与

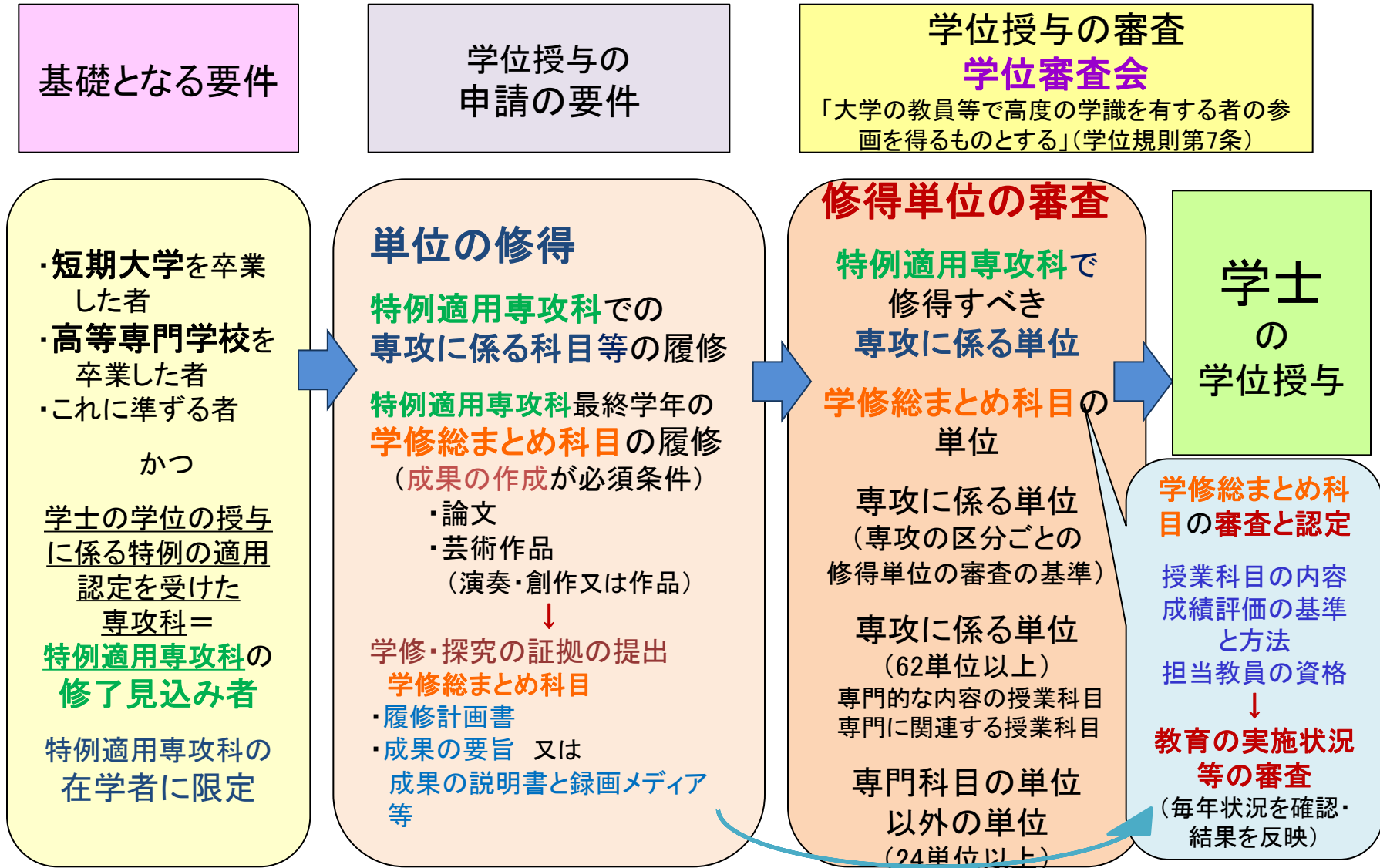
- ・毎年、申請者の提出書類により学修の成果を確認
- ・専攻科が提出する「学修総まとめ科目」の成績評価と合わせて確認
- ・「学修総まとめ科目」にかかわる審査の結果を蓄積



特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査に反映

機構の学士の学位授与制度

特例の審査方式による学位授与の流れ



機構の学士の学位授与制度 特例の審査方式

